

### 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176400372		
法人名	株式会社 マルベリー		
事業所名	グループホーム めくもりの家 2F		
所在地	留萌市開運町3丁目8-3		
自己評価作成日	平成25年6月3日	評価結果市町村受理日	平成25年7月19日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0176400372-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0176400372-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内
訪問調査日	平成25年6月26日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様一人ひとりが自由な時間を過ごして頂けるよう、食事以外の時間の制限を一切行っておりません。2つの町内会に加入し、町内会活動に積極的に参加、1Fデイサービスのスペースを夜間や土日に地域住民に無料開放して地域住民との連携を深めております。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鉄筋コンクリート造り5階建の2・3階に2ユニットのグループホーム、1階にはデイサービス、4・5階は高齢者マンションが併設されていて、行事、職員研修、避難訓練等で連携し相乗効果をあげている。又、利用者同士趣味や行事を通じて馴染の関係をすることができ、職員も同じ関わりを持つことにより、お互いに連携を蜜にして事例を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいる。地域は、繁華街にあり、住民との交流や協力が得られにくい地域であるが、地域との連携が大切であり、不可欠との考えから、福広・檜の2町内会に加入して、元気祭等地域行事への参加、夏祭り、運営推進会議への出席依頼など、地域との協力関係を積極的に推進している。更に、地域住民が気軽に立ち寄ってもらえるよう、デイサービスのスペースを土、日、夜間に無料開放を行っている。毎月「めくもり通信」を発行し、利用者の毎日の様子を家族に伝え家族との関係を蜜にしている。職員は明るく「めくもりのある生活」を理念に、利用者一人ひとりが自由にそれぞれの居場所で、思い思いのことで過ごせるよう支援している。

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	めくもりのある生活を中心に「癒し」「地域交流」「安心」「笑顔」「元気」「仲間」の六つの理念を考えている。開設して8年が経過している為、現在は理念の見直しについて職員と話し合いを行っている	「めくもりのある生活」実現の構成要因として癒し、地域交流、安心、笑顔、元気、仲間を基本とした利用者自筆の理念を各ユニットに掲げ実践して8年が経過し、更に地域密着と利用者のために何を目標とし実践すべきかを根本から真摯に思考している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2つの町内会に加入し、年に一回建物の裏通りで開催される元気祭に招待され参加している。また近所にある幼稚園の運動会見学にも参加している。年々運営推進会議に町内会の方の参加が増加している	地域との交流が大切との考えから飲食店中心の福広会、一般住居地の檜町内会の2つの町内会に加入し、町内の会議や行事に参加し、事業所夏祭りなどへの地域住民参加、デイサービスのスペース開放など、相互交流を行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	昨年度は運営推進会議内で認知症の勉強会を実施した。家族が変わっている為、今年度に向けても計画を立てていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成24年度は、運営推進会議を6回開催し、現況報告を行っている。家族や民生委員から地震や停電についての意見が多くあり、ストーブの設置や備蓄品の対応をとっている	市職員、防災関係者、民生委員、家族代表などが参加し年6回開催している。運営状況などの現状報告を行い、意見や助言を得て、サービス向上に活かしている。停電時の暖房について助言を得てストーブの備蓄を行った。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長、管理者が市の介護支援課と連絡を取ったり、足を運び実績やサービスの取り組みの報告を行っている。生活保護受給者の用件で市役所に行くことも多い。また市の職員から事業所に足を運んで下さる事が多くなっている	施設長を中心に市の担当部署に働きかけ、市福祉部は生活保護需給用件など、きめ細かい行政実現のため施設と連携を計り、相互理解と協力の体制が出来ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に一回社会福祉協議会が主催する高齢者虐待の研修に参加している。昨年度は、施設長と介護職員が参加し、学んだ事を職員で共有し知識を高めている	毎年、市で行う民生委員と合同で行う推進会議に施設長、介護職員が出席し、施設内の安全委員会で話し合い全員を対象に伝達講習を行い、意識を高め身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一回担当職員で高齢者虐待や事故報告について話し合う委員会を開催し、知識の向上を図り、防止に努めている。現在身体拘束を行っている入居者はいない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が権利擁護の研修に参加し、身寄りのない利用者の権利を保障する為、市役所や行政書士と連絡を取り、後見人、代理人に関する相談を行っている。現在は成年後見人制度を活用している入居者はいない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、運営規程、重要事項説明書を通じて、利用者や家族、関係者に十分な説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月めくもりの家の広報誌と利用者の一日の様子を記入した文書を郵送している。また家族の面会時に意見や要望を受け入れ、運営に反映させている	利用者とは日常の会話、行動から意向の把握に努め、家族とは来訪時の会話から思いを汲み取り、職員間で情報を共有して、非常時の温度管理の改善など、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	リーダー、副リーダーを中心に意見を聞き入れ、その意見を施設長、管理者に報告し反映させている	事業所の名前でもある「めくもり」のある心、生活をどう実現するか意識して、日常気付いた改善点などは、その都度、職員と管理者が、一体となって取り組んでいる。年2回個人面談を行い、意見を聞いて運営に反映している。めくもりのある働く人の職場として、節度ある明るい雰囲気反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	25年1月に全職員と面談を行った。そこで各個人が向上心を持って働けるよう職場の整備を行っている。有給休暇は職員お互いで取れている。残業は少なく、時間を超過した場合は後日に時間調整を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者から市内外の研修を提案し、参加したい職員が希望で参加できるようにしている。月に一回の全体会議終了時には移乗介助の研修などを内部研修として行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	札幌市、歌志内市の関係施設があるため、研修に行き来し、意見交換を行っている。また管理者が留萌市の脳卒中地域連携パスに積極的に参加している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院、在宅問わず、相談から入居までの間に何度も面談・面会を行い、利用者のニーズの把握に努めている。また信頼関係を構築し利用者が安心して入居できるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とコミュニケーションを多く取り、不安なこと、要望等に耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の意見を受け入れ、デイサービスや高齢者マンションの存在を示し、選択肢の幅を提供している		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理・盛り付け・洗濯の手伝いをしてもらい、互いに支えあう関係を築いている		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さな事でも常に報告を行っている。また月に1回、1日の様子をまとめた文書を家族宛に送付している		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間に制限はなし。外食や手作り弁当と一緒に居室で食べられている利用者もいる	理髪、美容室は、本人の希望通りに支援している。知人が、手作り弁当を持参して、部屋で食事をするなど、なじみの関係継続を積極的に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	昨年にあった利用者同士のいさかいがなくなっている。日々の状況に合わせて、席を考えるなど利用者同士の関係に配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	行事などの通信を送付したり、職員が街で会った際には、行事の開催の報告を行っている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意思が聞ける方には十分に聞き、困難な場合には家族に聞き、本人本位に検討している	利用者との日常の関わりの時間を大切に思いや意向を把握し、家族とも相談して、個々の思いや意向が実現できるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	仕事や性格、趣味を本人、家族から聞き把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の様子を介護記録に記入している。特に職員のコミュニケーションを多く取り、現状の把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが本人と話をしたり、職員とコミュニケーションを取って介護計画書を作成している。作成した計画書を家族、本人に提示している	毎日の介護記録をもとに、本人や家族から意見を聞いて話し合い、ユニット会議で検討して介護計画書を作成し家族の確認印を得ている。短期目標は3ヶ月、長期目標は6ヶ月、変化があればその都度見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月ケアカンファレンス、ユニット会議を行い、情報を共有し、計画の見直しに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者誕生会の際に家族を招待して一緒にお祝いをしている。受診の同行も行き、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の幼稚園運動会の総練習見学を行っている。年々長い時間行事に参加できる利用者が少なくなってきたのが現状である		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に月2回の往診を受け、常に報・連・相を行っている。いつでも相談が出来る関係を築いているため職員も安心している	希望通り継続してかかりつけ医に受診できるよう支援している。提携医の協力で、月2回訪問診療の体制がとられている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	便の対処や皮膚の処置については看護師が行っている。また発熱時等は看護師に報告を行い、適切な受診や看護を受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中に足を何度も運び、情報交換や相談に努めている。食事摂取が難しい方の際には、食事介助の様子を観に行くこともある		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	管理者がターミナル研修に参加している。それを職員で勉強会を行い終末期に向けた方針の共有に努めている。現在は利用者の状態を観察しながら、受診や救急搬送を検討している	契約時「重度化した場合の対応に係る指針」に基づき説明している。管理者を中心に職員研修を行って終末期の対応指針について共通理解に立っている。家族の思いや、利用者の希望や思いを大切に提携医師とも個別に相談して対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年度に全職員が救命講習を受けた。また定期的に職員で確認を行っている。マニュアルも作成済みである		
35	13	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、近所の方に発信している。また運営推進会議の場でマニュアルを提示し町内、消防団職員に呼び掛けを行っている。昨年度は夜間を想定した避難訓練を1度開催した	火災、地震等自然災害対応の防災マニュアルに従って年2回昼夜を想定して、消防署の指導と地域町内会、民生委員等地域住民の協力を得て、災害避難訓練を行っている。	災害時の避難場所について、火災の場合、地震津波の災害を想定し一時避難場所を決め、あらかじめ利用者家族に知らせ、情報を共有して、お互いに一時的にも、所在不明の状況が起こらないようにすることを期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員同士注意しながら、行っている為言葉使いや声掛けについては良くなってきている	地域性による言葉遣いについては職員間で、気配りし、個人の尊厳を大切に親しさ、節度を大切にしている。個人情報ファイルの管理、取り扱いに気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	水分補給時の飲み物については、暑い物、冷たい物を利用者に確認して好みで提供を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペース、状況に合わせて支援をしている		
39		その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する美容室の援助を行い、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食から普通食まで全ての対応をしている。また好き嫌いを聞き、なるべく嫌いなものは提供しないようにしている	朝夕食事は職員中心に利用者も参加して献立づくりと調理を行っている。昼食は、業者に委託している。寿司職人が、利用者の目の前で握り寿司を提供するなど楽しむ食事に気配りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事量、水分チェックを行っている。自力摂取が難しい利用者には食事、水分介助を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者によって毎食後口腔ケアをされ、毎日義歯洗浄を行っている。また口腔ケアが難しい利用者にはガーゼにて口腔内の清潔を保っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表に記入を行い、利用者の身体的な状態を観て、対応を考えている。排泄パターンをみて声掛けを行っている	利用者個々の排泄パターンを把握して夜間もトイレでの排泄の自立支援を行っている。オムツ利用の弊害を最小限にするため気配りしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜摂取が不足している利用者には、毎食後に野菜ジュースの摂取を行っている。毎日体操を行い、個々に応じた対応を取っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望のある利用者については希望通り行っている。入浴回数の制限はなし	入浴について、時間、回数に制限はない。1階にある。ブラックシリカの浴場を楽しむことが出来る。必要により職員が介助している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の身体状況に合わせたベッドを検討し使用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	昨年薬剤師による勉強会を実施した。一人ひとりが服薬している用法や用量を理解できるよう努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌のテレビをみながら歌ったり、体操をして身体を動かすなど、利用者に応じた楽しみ事を行い、気分転換等の支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族や友人との外食は気軽に行けるよう支援している。また夏場は受診時などに車椅子介助にて散歩がてら行っている	朝の散歩のほか、近くの幼稚園との交流や、イチゴ・さくらんぼ狩り、苫前町・小平町の道の駅めぐりなど季節と果物、桜の花見と秋の紅葉狩りなど、季節と景色・果実など、さまざまな組み合わせで支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物際には本人にお金を払ってもらうよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	兄弟との手紙交換を行っている利用者がいる。また電話の要望があった場合にはその都度対応している		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールに季節感を感じ取れる飾り付けを行っている。また父の日や母の日などの写真を居室に飾っている	居間と食堂の共用空間は窓は広く、適度に日が入り明るく、廊下にソファが置かれ団欒の場となっている。居間、廊下などに利用者手作りの貼り絵等が飾られ、時間や季節感を感じさせて居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの居室にて談話をされている利用者がいる。気の合った利用者同士話しやすいよう廊下にソファを設置し、くつろぎのスペースを作っている		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で生活していた馴染みの物を居室に設置している。じゅうたんなど転倒に危険がある物については、家族に相談しながら行っている	居室には、利用者の安全を考慮してベッドか布団か、床の絨毯は安全かを確認するほか、家庭での思いのある家具やテレビを配置して、ここでの生活が利用者にとって、快適になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全面に配慮し出来ることは本人に行ってもらよう支援している		